2026年11月16日

会　社　名　株式会社 髙 島 屋
代 表 者 名　取締役社長　村田 善郎
コード番号　8233
連　絡　先　広報･IR室長　大江 真理子
TEL. 03-3211-4111

2026年10月度　髙島屋営業報告

2022年3月から「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、営業報告で開示する売上高につきましては、従来の基準(総額売上高)で開示しております。

〔売上高　総計〕

（前年比 単位:%）

㈱　髙　島　屋　計	※1	+2.1
㈱ 髙 島 屋　既 存 店 計	※2	+3.9

㈱　髙　島　屋　および 国 内 百 貨 店 子 会 社 計		+2.2
㈱　髙　島　屋　および 国内百貨店子会社　既存店計	※2	+3.8

〔店舗･事業部別　概況〕

（前年比 単位:%）

	売上高	入店客数
大　阪　店	△0.1	△3.8
京　都　店	※3 △2.4	△9.5
泉　北　店	+10.7	+4.9
日　本　橋　店	+11.1	+7.1
横　浜　店	+1.9	+1.2
新　宿　店	+6.5	+2.4
玉　川　店	+2.8	+2.2
大　宮　店	+1.6	+3.6
柏　店	※4 +7.9	+4.8

	売上高	入店客数
E　C　店	+9.8	-
㈱　髙　島　屋　各　店　計	+2.0	△4.1
㈱髙島屋 各店 既存店計	※2 +3.8	+1.5
岡　山　髙　島　屋	+2.4	+1.2
高　崎　髙　島　屋	+4.1	△3.6
㈱ 髙 島 屋　各 店　および 国 内 百 貨 店 子 会 社　計	+2.1	△4.0
㈱ 髙 島 屋　各 店　および 国内百貨店子会社　既存店計	※2 +3.8	+1.4
法　人　事　業	+7.5	
クロスメディア事業	△1.9	

※1. ㈱髙島屋の売上高は、㈱髙島屋各店、法人事業、クロスメディア事業を含みます。
※2. 本年1月7日に営業を終了した「堺店」および8月3日に営業を終了した「洛西店」の前年実績を控除しています。
※3. 京都店は「洛西店」の売上高と入店客数をそれぞれ含みます。
「洛西店」の前年実績を控除した京都店単独の前年比は売上高＋1.3%、入店客数＋2.1%となります。
※4. 「タカシマヤ フードメゾン おおたかの森店」の売上高と入店客数をそれぞれ含みます。

〔商品別売上高〕

（前年比 単位:%）

	㈱髙島屋	㈱髙島屋 および 国内百貨店子会社
衣料品	+1.4	+1.4
紳士服･洋品	△0.9	△1.6
婦人服･洋品	+1.3	+1.4
子供服･洋品	+10.3	+11.1
その他衣料品	+1.0	+1.6
身のまわり品	+3.4	+3.4
家庭用品	+8.0	+8.6
家　具	+7.3	+6.9
家　電	+36.1	+35.7
その他家庭用品	+2.7	+3.8

	㈱髙島屋	㈱髙島屋 および 国内百貨店子会社
食料品	△0.5	△0.5
生鮮食品	△5.3	△4.8
菓　子	△0.1	+0.1
惣　菜	△2.0	△1.8
そ の 他	+3.3	+2.3
食堂･喫茶	+4.5	+4.7
雑貨	+3.5	+3.7
化 粧 品	+14.0	+13.8
美術･宝飾品･貴金属	△5.4	△5.1
そ の 他	△0.3	△0.5

	㈱髙島屋	㈱髙島屋 および 国内百貨店子会社
サービス	+8.7	+8.9
その他	△3.7	△3.1
合　計	**+2.1**	**+2.2**

○百貨店売上高の前年比(※既存店対比)におきましては、店頭売上高＋2.1%(※＋3.8%)、免税売上高△0.5%、免税を除いた店頭売上高＋2.5%(※＋4.6%)となりました。

○国内顧客については、気温の低下に伴いジャケットやストール等の秋物衣料・雑貨が堅調に推移し、前年実績を上回りました。
インバウンド顧客については、前年の大阪・関西万博による集客効果の反動があったものの、化粧品や子供情報ホビー、リビング関連商品等が伸長したことから、前年実績並みとなりました。 ※インバウンド:前年比【件数】△3.2%【単価】＋2.8%

○法人事業は、受注が堅調に推移したことにより、前年実績を上回りました。
クロスメディア事業は、主力のカタログ事業において、食料品が堅調に推移した一方、衣料品・雑貨を中心とするファッション関連商品が伸び悩み、前年実績を下回りました。

○11月の百貨店売上高の前年比(15日までの累計 ※既存店対比)について、店頭売上高は△1.6%、免税売上高はリファンド方式への移行等の影響もあり△34.4%(【件数】△25.9%【単価】△11.6%)となりました。一方、免税を除いた店頭売上高は＋2.8%で推移しています。

以　上